

〈第2期〉全40卷
(第61~100卷+別卷)

第81～85卷

旅行・交通（海陸交通）
災異（地震・救荒）
仏教（般若心経）
祭祀（葬祭）
漢学（語録）

2020年5月刊

*各巻
分売可

2020年5月刊

***各巻
分売可**

般若心經鈔圖會(83 卷)

增補日本汐路之記(81卷)

葬事略記(84卷)

葬事略記

角田忠行記

人の子ありむ者、父母のよめは五六十歳、各
至らは、請てその肖像を寫し或て歌ふも詩
或て得意のものとて、
の字置なし、言せけて年老病小罹て。危篤、うらむ
と人も吾吾思ふ時は、親族うち寄で、家ふつ
き、身ふつき。心得とせむ事とを尋問、たまふ
遺言等あらむ。皆記し置く前者も其家ふ
つて置候き留めて

救荒孫之杖

救荒孫之杖（82卷）

越後 笠植 枕雲洞主人 著

本朝飢饉運數之事

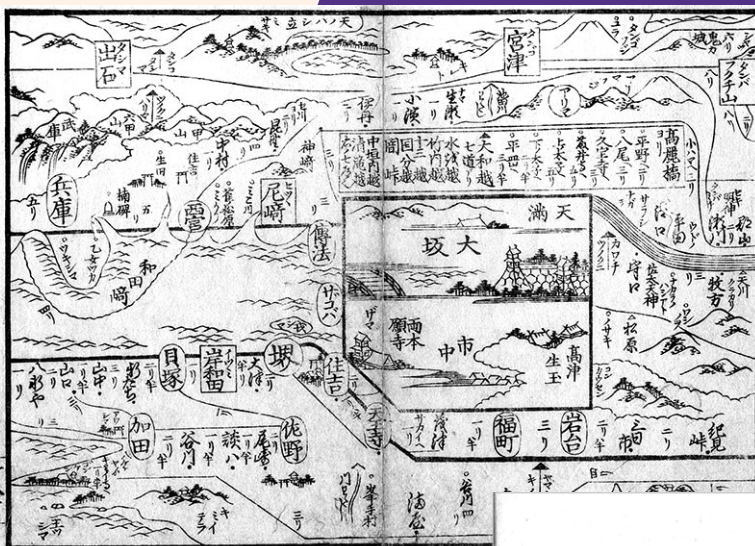
元本朝上古りの飢饉を考へて大抵
年前後は運るも災あるも多を偏荒
なると西南平年との類也と春秋
に災あるもふくむとせられたる年よ
一の要害也と禮記を三年蓄く年よ
年蓄く九年の飢災を免る災を御粥
荒に猶豫するの理を測量とて條制度

摩訶般若波羅蜜多心經

宗純抄

江戸庶民と

同時代を読む



海陸道中行程図鑑(81 卷)

言志錄

言志四録) 言志録(85 卷)

地震考(82卷)

學術資料出版

大空社出版

資料に命いのちを
作品に心こころを
形にして伝える

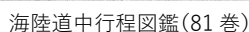
www.ozorasha.co.jp

(収録2点)

「大阪」高田清兵衛ほか板
よしあし

より長崎など22航路を載せ、巻末に「風雨を知る事」「略歴（明和7～11年）」「潮の満干」等の記事を付す

等の駄賃・問屋関連の情報、「潮汐満干」「旅立の歌」なども付す



饑年要錄

○餓饉ハ異國ノ説ハ立報不登と餓饉ハ謂ハ十穀
饉ハ謂ハ日本にて此説ハ不依ク成ベ一今
唱ハる處ハ承教不熟一て萬民飢餓小ガと總
飢饉トイハ人世界第一の患ト一て窮民是小遇少テ命
失小者少ト一炊糲年モ統ク時ハ國ノ亂トモ成法ノ事カ
テ此上ノ災ハ有ベ一ト是天より入ノ念ト罰一給フナリ
然ル小此患ハ數年遠ザルモ人怠リ奢ル長ビ己ガ小
縱小日ト送リ年ト重給財ハる者モ施ラズト思ハ覆
一三者モ兼ト怠リ飢饉ノ艱難ハ昔ノ時の小少デモ

○松尾崎の鼻有○九里溪○本浦
加々波越りありといふといふ磯崎有
う大分居るあり
相列浦有 上下 神奈川、大磯 ハリ
東海より才一とくの漆なり上には鼻
に大萩地有内入所番所有は漆々
と漆なる下は磯有是は水乾き
漆と云をも有○猿崎汝越りて○
榎本戸 浦有、ハリ下 入漆上には鼻に小崎
有○夏崎の小鼻○金沢○求女の
鼻○赤ぎし出鼻 榎の本戸鼻より小
崎あり

增補日本汐路之記(81 卷)

***各巻
分売可**

救荒孫之杖(82 卷)



第82巻 【災異(地震・救荒)】 (収録7点)

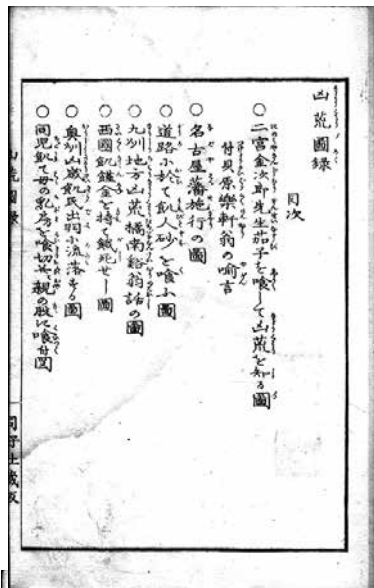
饑年要録 (きうねんようろく) 福沢憲治 (ふくさくけんぢ) (彦四郎・六郎兵衛・駒嶺) 作。天保7年10月刊。「信州福岡」福沢氏施印。▽信州伊那郡上穂村 (現、長野県駒ヶ根市) の豪農で、天保3年以後続いた飢饉に米倉を開放して炊き出しを行い、野草を食料とする研究も進めた福沢憲治が、飢饉の最中に著し自ら施印した救荒書。必要悪の飢饉に対処するには日頃の心掛けが大切なことを論じたうえで、天文14年、寛永19年、延宝3年、天和元年、享保17年、天明3・6年と周期的に飢饉が発生した歴史を振り返りつつ、とりわけ被害が甚大だった天文14年、天明3・6年、天保4年の飢饉については経緯や惨状を詳述する。そして、恒常的な飢饉対策の必要を指摘し、倭約と各害の違い、非常時の備蓄 (義倉) の必要性、為政者による倭約・備蓄・防災の教訓、救荒食物 (代用食) のあらましを記す。昭和11年 (1936) 刊の複製本も抄録。

救荒孫之杖 (きうかうそんのう) 雲洞作。 (神竜・枕雲洞・法天・無心庵) 天保8年3月刊。「越後笠楨」優学館蔵板。▽古代から天保期にいたる日本の飢饉の歴史や飢饉の惨状、また、飢饉の予兆や越後における飢饉について述べ、さらに、飢饉時の救荒食や、瀕死の人に対する救命法にも言及した絵入りの救荒書。内容は「本朝飢饉連数之事」「飢饉先兆の事」「奥羽飢饉風説の事」「古今人情生計くらべ」「飢饉扶食糧製 (実類・根類・嫩葉類・荒地に植べき物・干糧にして長貯へらるゝ物・海産長く貯へらるゝ物・獣肉・糧物の心懸に時植べき物・糝味噌製法・飢饉の時、雑食いたし喰あたりに用る法)」「各種救命法 (餓死を救う法、并餓人凍死の救法・縊死を救う法・溺死を救う法ほか)」など。

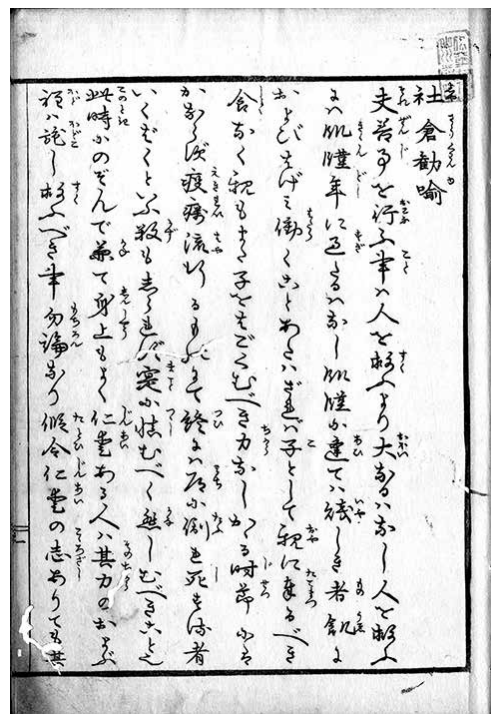
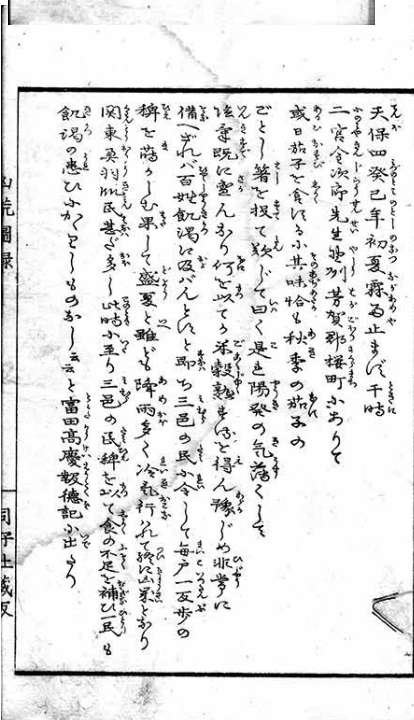
社倉勸諭并附言 (しゃそうくわんぎやうへいふきげん) 足代弘訓 (あししろこうくん) (度会弘訓・足代翁・寛居) 作。沢屋重衛門編・付言。嘉永4年 (1851) 冬刊。「宮田」沢屋重右衛門板。▽飢饉・災害等の非常時に備え穀物を備蓄する「社倉」の方法と心得を説いた書。社倉法は、朱文公『社倉記』や張文嘉『齊家要』で説かれ、山崎闇斎『朱子社倉法』によって日本にも広く紹介された。「夫、善事を行ふ事は、人を救ふより大なるはなし。人を救ふには、飢饉年に過たるはなし」と起筆し、飢饉時に財力のある仁者が力の及ぶ限り救援活動するのは当然だが、仁愛の気持ちはあっても財力が乏しければそれは叶わない、こんな時、古人が考案した社倉法は、「世のさまざまにせむならず、国の費にもならずして人を救ふの趣法」であると述べ、各地に「連」を結成し、一人一人が一日銭一文ずつを貯金し、それを集めて米穀を備蓄する積小為大の心掛けを推奨する。

凶荒図録 (きようかうずろく) 小田切春江 (おだぎりしゅんこう) (忠近・伝之丞・歌月庵喜笑。愛知同好社幹事) 編。明治18年 (1885) 5月刊。「名古屋」愛知同好社 (著者) 蔵板。▽享保・天明・天保の三大飢饉の惨状や逸話を、『報徳記』『農業全書』『続西遊記』『農諭』『天明年中凶歳日記』『饑年要録』『済急記聞』等に取材して描いた淡彩刷り絵本。見開きを基本とする挿絵で、

「二宮金次郎先生、茄子を喰して凶荒を知る図、付、貝原樂軒翁の諭言」「名古屋藩施行の図」「道路に於て飢人砂を喰ふ図」「九州地方凶荒、橘南谿翁話の図」「西国飢饉、金を持て餓死せし図」「奥州凶歳、飢民出羽に流落する図」「同兇飢て母の乳房を喰切、并に、親の股に喰付図」「同一村尽く餓死して亡所となる図」「鈴木金右衛門、衣服を売尽して窮民を救ふ図」「義農作兵衛、種麦を枕として餓死する図」「凶歳に塩気を含める筵を熬りて食する図」「蟻蜂食を畜へて冬春を凌ぐの図」など18図を掲げ、総振り仮名の平易な解説文を添える。巻末に「救荒草木一覽」と「有毒草木一覽」を付す。



凶荒図録(82巻)



社倉勸諭并附言(82巻)

契機に、地震にまつわる妄説を排除し、本朝の地震の歴史や諸文献『類聚国史』『三代実録』『皇帝紀抄』『方丈記』『天文考要』『本朝天文志』『怪世衍義』『天文考要』『和漢三才図会』などから地震のメカニズムについて論じた書。また、人々の不安や迷いを解くため、『天経或問』に基づき、今回の京都地震も地球規模からすれば極めて局地的なものであることを「地球図」を用いて解説し、地震には「心（震源地）」があつてそこから四方に揺れが広がることや、各地における大地震の予兆についても縷々紹介するほか、地震を予知した享保年間の盲人四方市のご事や地震の原因に関する考察などを記す。

地震年代記(じしんねき) 無名氏編。安政3年頃刊。「大阪」文麗堂(ぶんれいどう)播磨屋利助(はりすけ)板。▽諸文献に基づいて本朝の地震史を総覧したうえで、安政2年10月2日の大地震の詳細を報告した書。『埃囊鈔』の地震動吉凶の占法や仏説に基づく4種の地震に触れ、安政大地震が「帝釈動」であつて決して凶兆ではなく「兎にも角にもいとめでたき世直し」と位置づけ、「上代よりの地震を古今の書籍より鈔略・取詮して、今度（安政大地震）のにくらも勝る地震数十度ありしかど、世の衰弊するにもあらず、弥栄えにさかえて天地と共に窮りなき我葦原の中国の泰平万々歳たるよしを人々に知らせ参らせん」と出版の意図を披瀝する。前半部は古代からの地震の記録を記載し、後半部には、安政大地震の江戸府内の被害状況などを18地域別に、また江戸を起点とする街道筋近郷の罹災状況を、「潰家一万四千二百四十一軒ト千三百三棟、潰土蔵千六百四十九ヶ所…」のように記載する。「須佐之男命が国をゆする図」「東大寺盧舎那仏罹災図」「伏見大地震図」「江戸地震出火一覧」「安政大地震後の御救小屋風景」など6葉の口絵・挿絵を収める。

《御府内・五街道》大地しん（どうふな おおじしん） 御安台賤丸作。安政3年頃刊。「江戸カ」調集堂板。▽表紙とも5丁の小冊子で、安政2年10月2日の大地震の模様やその被害をルポルタージュ風に報告したもの。江戸府内各地の惨状を次々列記、周辺部や街道筋の罹災状況にも言及し、今回の被害が明暦の大火を超えるもので死者も数知れず、荷車や船で死体が寺院へ運ばれる有様は見るに堪えないものが、翌日には鎮火し、時折余震があつても特別な事はないと述べた後で、「町数五千三百七十余崩」「御屋敷二千五百六十余軒損ず」「寺院堂社三万九千六百三十ヶ所」「土蔵の数五億八万九千七百八十六ヶ所」と罹災規模を具体的に示す一方、「軽き者へはそれぞれ御手当・御救米被下置、四民安堵に帰し、鼓腹して御仁徳あふぎ奉るは、実に目出度事どもなり」と為政者の救恤を讃えて、「かゝる凶変のうちにかくまて調集なすは、遠国・他邦の親族へ告知らしめて安堵ならしめんことを思ふの老婆心なり」と記す。

御府内
五街道
火地番人

此の事故二卯十月二日の夜四時頃不大地震あり出り
戸内里四方人家壊亡絶に北の方より南千位前
木ありつれ小峰東の家森坊も是處まで中程より火
く一軒も焼くや、院失物森東の一吋ふみ下木所を燒き
上野町並丁同より出火焼くより又角町より出火
く大門近號六十万兩側を焼く之より西なる寺は
幾つか山の奥に至る所燬入修の條三町二丁より
燒くるなど大なる焼ける之處を觀る所がやくむらう門
前は地恩坊も是處まで至る通り坊も是町より安んじ
是より駒坂近修もあり又回來町三町丁廻へかり御

***各巻
分売可**

地震年代記(82 卷)

地震考(82卷)

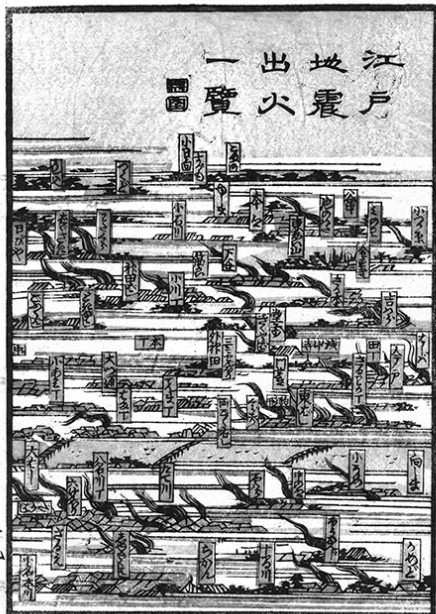
地震考

文政十三度寛平七年七月二日申の時より到大に地震ハ出
 つゝあつゝくゆつ動くやうに大に活中の主藏龍蛇など
 大にいでては是より家屋もあつゝ大に倒るは是より救多
 ありく龍蛇も堀きと大に倒るは是より救多
 ありく昔ハあつゝはけと近く秋の大に倒るは是より救多
 ありく昔ハあつゝはけと近く秋の大に倒るは是より救多
 ありく昔ハあつゝはけと近く秋の大に倒るは是より救多
 ありく昔ハあつゝはけと近く秋の大に倒るは是より救多

要政 元卯年十月二日夜亥の上刻地震即時に地がふたつ
三十余歩なり翌三日輕政方より申しがそのち地震を日
かゝりて十月廿日比より止す代に所あり
①白川郷より小室町より松岡小田富所から町会所へ沿つて沿る所通
越る所は爲町より松岡小田富町迄大抵は土を越る所は
傾くは田舎地なりと云ふ所は土を越る所は
②小室町より會町迄振別のなりといふ所は土を越る所は
沿る所は門井田森井町橋下と云ふ所は土を越る所は
③本國より松岡小田富町迄土を越る所は
沿町より松岡小田富町迄土を越る所は
沿町より松岡小田富町迄土を越る所は

地震年代記

江戸地震出火一覽



第83巻【仏教(般若心経)】

(収録6点)

般若心経絵抄

(ぎやんにやしん)

玉川雲起(一真)作

天明2年5月初刊。[大阪]秋田屋太右衛門ほか板。

▽般若心経の絵入り注釈書。正式名称を「摩訶般若波羅蜜多心経」とは「大智恵」のことで人々に本来備わったものだが、小智にさえぎられて大智恵を見ることができないと論じて大智・小智などを順々に読み解くように、それぞれの意味を詳しく解説。「観自在菩薩」以下の般若心経本文を一句ないし数句からなる二五段に分けて施注するが、特に「照見五蘊皆空、度一切苦厄」「不生不滅、不垢不淨、不増不減」「乃至、無老死、亦無老死尽」の三カ所は頁を費やして詳しく解説。本文中に挿絵4葉(盜賊・往來の人々・酒宴遊興・恒河)を挿入。

般若心経和解

(ぎやんにやしん)

作者不明

天明2年(1783)4月初刊。[京都]菅屋儀兵衛ほか板。

▽般若心経の題号と、本文各句の語注や文意を詳しく解説した注釈書。「文字学者の為にせず。教相(仏教諸宗の教義理論)の名目(呼称)も少なし。簡にして要なり。言文なざる鹿にして惑なし」(序)。本文3分の1を費やして「摩訶般若波羅蜜多心経」を注し、題号の解説に重点を置くのが特徴。「心経」とは「唯自の心を説顯した」もので、これは心経に限らず「一切の経論・祖録、皆自心を説顯たるものなり」と喝破。「照見五蘊皆空、度一切苦厄」と「無苦・集・滅・道。無智、亦無得」の二段の注釈が長文であり、前掲「般若心経絵抄」と比重の置き方に相違がある。注釈は総じて口語調。序文を書いた知真庵は、江戸中期、天明頃の僧侶(京都清閑寺住職)で、手島堵庵に師事した心学者。

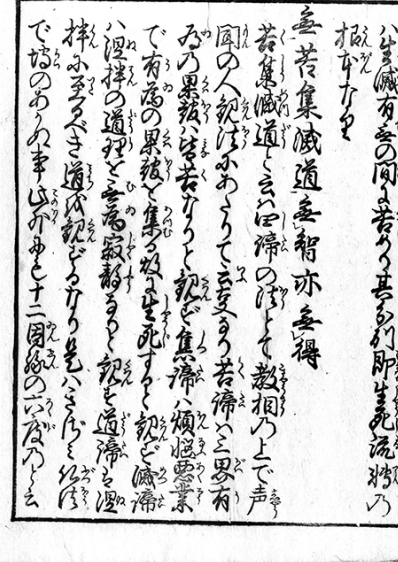
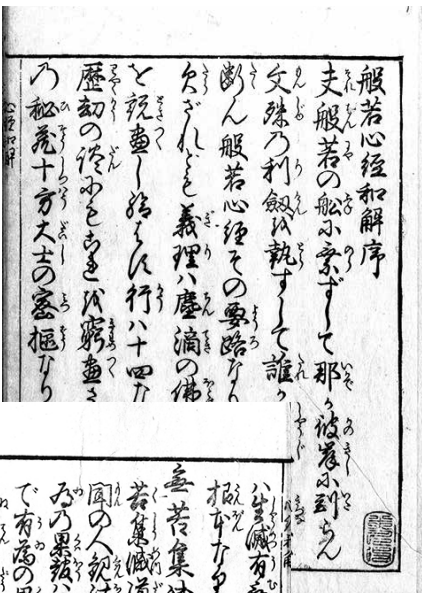
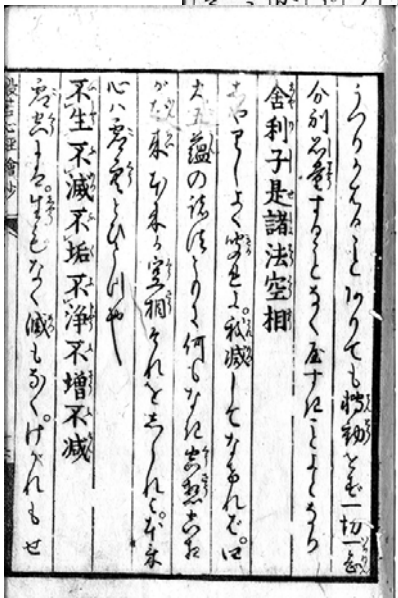
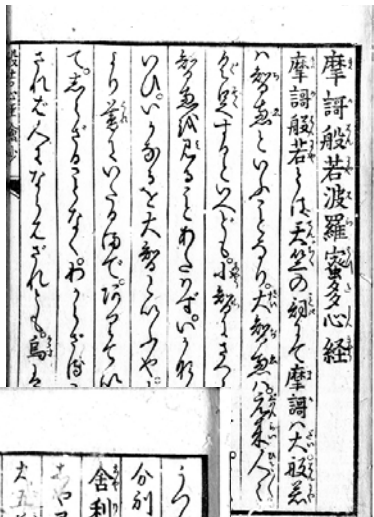
般若心経鈔図会

(ぎやんにやしん)

辻本基定(源基定)編

天保15年(1844)初刊。[京都]堺屋仁兵衛(尚書堂)板。

▽絵入り注釈書。「摩訶般若波羅蜜多心経」の題号を詳しく説き、「般若」は智恵を意味するが、これは世間で言う「分別・才覚」などの「小智」とは別次元の「大智」であり、「心経」とは「般若の心」そして、仏がこの経を説いたのは「本覚の智恵をもつて一切の衆生をして妄心・もふねん(妄念)を除き正しめて生死大海のこの岸をわかれて不生不滅のねはん(涅槃)の彼岸にいたらしめて、衆生をして本心・本性を見せしめんがためなり」と述べ、続けて「此法はうけてたもてる玉なれば、永きよてらす宝成けり」以下14首の和歌(道歌)を掲げるように、注釈文の随所に道歌を数多く列挙するのが特徴。「釈尊と弟子」「白象に乗る遊女江口(西行や一休が遊女とやりとりする問答歌を掲げる)」「花見」など挿絵4葉を載せる。



般若心経和解(83巻)



般若心経鈔図会(83巻)

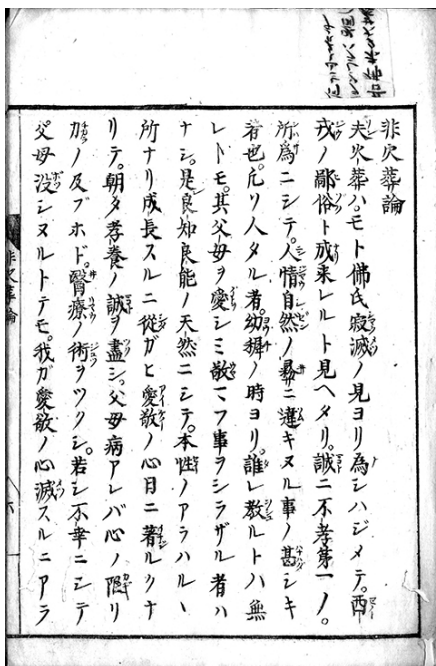
第84巻【祭祀(葬祭)】

(収録8点)

非火葬論(30巻) 安井真祐(帰正庵) 作。享保2年(1721)9月刊。「江戸」戸蔵屋喜兵衛板。▽もと京都の僧侶で、後に還俗帰儒した著者が、父母を火葬した己の後悔を他人に味わねないために、火葬の起源、火葬の非道と残酷さ、火葬を広めた仏教の矛盾や問題点を指摘した仮名書きの書。益軒から「世教に補ひあること大なり」と評価されたが脱稿から30余年後に刊行された。火葬が「不孝第一の所為」で「人情自然の彝(人が常に守るべき道)」に背く行為であること、「父母を愛しみ敬まふ」のは「良知良能の天然」であり、父母の遺体を大切にするのは「愛敬の心」にほかならないと説く。そもそも火葬は古代中国の極刑であり、火葬で穢れた煙を神国の空にたなびかせるのは最も禁忌すべきものと非難。また「愛敬の孝心」や「人情自然の彝」を妄想とみなし、未来応報説や念仏宗の悪人正機説で社会秩序を維持せんとする仏教の教えは、火葬同様に有害無益と論断する。

日本養子説・非火葬論(31巻) 安井真祐(帰正庵) 作。「日本養子説」は跡部良頭(光海・良賢)作。「非火葬論」は安井真祐(帰正庵) 作。「日本養子説」は享保7年(1722)10月作。「非火葬論」は安政3年(1850)8月刊。安中藩板。▽「日本養子説」は、皇統における養子の事例を示して養子の必要とその道理を論じた書。『日本書紀』神代卷(上)の天照大神の勅「其の物根を原ぬれば、則ち八坂瓊之五百箇御統は是吾が物也。故に彼の五男神は悉く是れ吾が児なり。乃ち子を取りて養しき」を引いて、これを「我國養子の始」とし、以下、成務天皇が日本武尊の子を養子にして譲位したことなど皇統における養子の例をいくつか示し、末代においては「氣化も薄く、上下男女を生ずる事も古に及ばざれば、子なきものは養子の義なくては叶はぬこと」と述べて養子の必要性を強調し、その心得を述べる。「非火葬論」は前掲の享保2年板と内容だが、甘雨亭叢書本では、送り仮名・振り仮名を省略・割愛したり天皇名の前を欠字にするなどの改編が見られるほか、甘雨亭主人の跋(5行)を新たに加えてある。

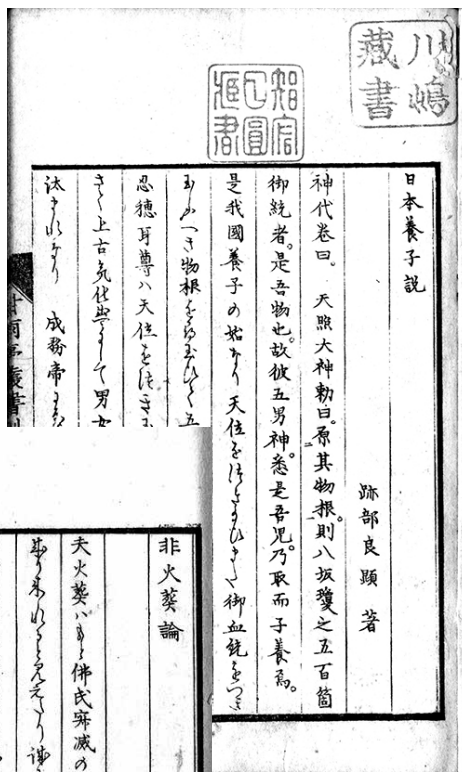
葬事略記(32巻) 角田忠行(由三郎・伊吹舎・墨繩) 作。江戸末期初刊。刊行者不明。▽老親を持つ者の心構えや神葬祭における準備や儀式全般を述べた葬祭書。危篤の際に、家や自身についての心得や遺言などを全て書き留めるべきこと、親が死去したらすぐに神棚を封じ、被(横、横)で棺を作ること、神衣(神道の死に装束)や副葬品、納棺、祭壇等についてなどを記す。また、祭主(喪主)が告げる故人「一世の功業」の文例を掲げたり、「葬の後、五十日も過なば、おごそかに墓碑を立てるぞ、人の子たるの道にはありける」と説く。親の肖像については「或は歌にても詩にても得意のものを書せ」、あるいは、棺用材の被については「此木なくば、松の木など用ふべし。檜杉の類用ふべからず」など、本文の随所に割注・補注を施す。



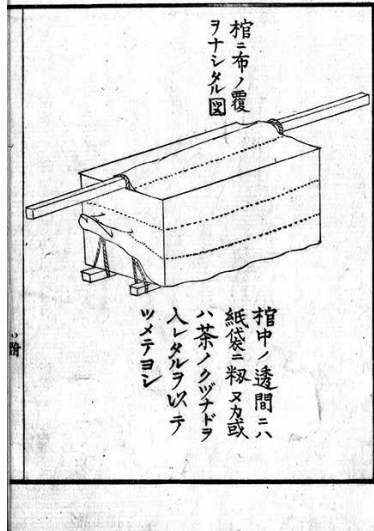
非火葬論(84巻)



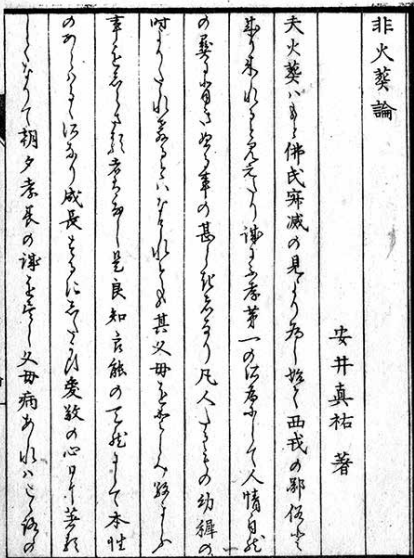
*各巻分売可



日本養子説(84巻)



葬事略記(84巻)



非火葬論(84巻)

上等葬祭図式（じやうとうしやうそく） 常世長胤（じやうせいちやうきん）（常住敬吉・栄木廼舎（えいもくゐさ））作。明治7年（1874）春刊。「東京」栄木廼舎（著者）蔵板。「東京」中村佐助ほか売出。▽主に貴人向けの神葬を簡条書きに記し、多くの図解を交えて解説した葬祭書。「官位高キ人等ノ葬祭ニ係テ数度執擬ヒタル記録等ヲ本種トシテ目安ク図式ニ撰定」したとし、「歛具（えんぐ）及祭具ノ品物、員数・寸法ニ至ル迄、万事際ヤカニ記載スルト雖モ、総テ失費ニ関係スル事物ハ、其分限（ほど）ニ応テ増補・節略スルコト喪主ノ意ニ任ズベシ」と述べ、本書で示したものが一つの目安であり、喪主の事情に即して適宜判断すべきと断る。葬祭は神職等に全面的に任せよと説いた後、葬祭の手順、神官ならびに教導職等の役割や招魂祭・葬祭の基本的な心得を示し、招魂祭・地鎮祭・入棺・発葬祭・葬所祭・墓所・見滌（みそぎ）・視祓（はらへ）・葬後霊祭・追祭について、儀式の段取りや必要な準備について順々に説明し、適宜、葬祭具や祭場風景などの図解を多く掲げる。

疾人衰儀代
 起神算トハ我國ノ風儀ニテ莫祭ヲ行タ云
 我國ノ古風ハ莫祭ノミナラズ諸事ハ神カ
 バ質直ニ簡易カリシヲ倭佛ノ教惑テ華飾
 タノニ尚フ事トハ成タリサレハ莫祭モ古昔ニ
 復シテ簡便ニ教原ク行ベキ事第一ノ心過
 又志ニ閑ヲ食ニ酒ヲ飲ニ無賴ナルヲ神莫ト
 思フ事勿レ父母迎親ハサラ也人ノ衰ニ違テ
 衰情ナキハ人タルモノ、道ニ非バ

[illegible]

上等奉祭圖式

教部中錄常世長胤撰

此書ハ官位高キ人等ノ奉祭ニ係テ數度被拜セタル記
録等ヲ本據トシテ日安ク圖式ニ規定タレバ器具及祭
具ノ品物眞數寸法等ニ至ル迄万事際ハカニ記載スル
ト雖モ終テ失費ニ關係スル事物ハ其令限ニ應テ増補
節略スルコト後主ノ意ニ任スベシトモハ頼子タルベ

The image contains several illustrations and labels:

- Top Row Labels:** 大船 (Large Boat), 中船 (Medium Boat), 小船 (Small Boat).
- Boat Hull Illustrations:** Three simple line drawings of boat hulls at the bottom.
- Sail/Canopy Illustration:** A large, conical structure made of many thin poles tied together, labeled 帆 (Sail) and 舟の帆 (Boat's Sail).
- Cabin/Superstructure Illustration:** A small wooden building with a gabled roof and sliding doors, labeled 舟屋 (Boat House/Cabin).
- Drum/Container Illustration:** A cylindrical object with a handle, labeled 桶 (Barrel/Drum).
- Other Labels:** 舟の材料 (Boat Materials), 舟の構造 (Boat Structure), 舟の製作 (Boat Making), 舟の修理 (Boat Repair), 舟の運送 (Boat Transport), 舟の保管 (Boat Storage).

葬儀心得大意（そうぎこくたいい）新田邦光（竹沢寛三郎）作。明治11年3月刊。「東京」山田亀一郎板。▽神道修成派の門人向けに編まれ出版された、表紙とも全10丁の簡易な葬儀心得書。同派の教祖、新田邦光が慶応年間に門人に示した葬儀心得の問書を後に校訂・上梓した。邦光の心得は全14項から成り、①生死は表裏であり、吉凶循環が当然の理である、②生は当世への来臨、死は幽界への帰去であり、懇篤を尽くして死者を送るべきで、葬儀には己の真情を竭せ、③仏式の葬祭には神代以来の伝統も多く、仏葬を神葬に改めることは困難ではない、④私が説く神道修成派の法に従って葬儀を行えば死者の霊は神となる、⑤墓には木を植えよ、世間の火葬は野蛮だから決して用いるな、⑥眼前の神道の葬法を無視して外国の葬法を用いるな、⑦祝詞の奏上が望ましいが、死者の行状を懇切に記した俗文でもよい、など。末尾の増補は、天皇と同様に皇国民が全て神葬にすべきことや、神道教導職が葬儀に際して金品を得てはならないことなどを説く。

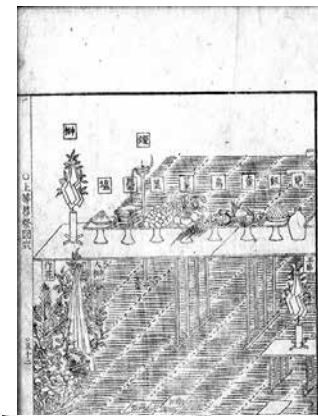
第85巻【漢学（語録）】（収録1点）

言志四録（言志録・言志後録・言志晩録・言志耄録）（げんししよろく／げんししよろく）佐藤一斎（坦・信行・捨藏・大道・愛日楼・老吾軒）作。【言志録】文政13年8月初刊（江戸）須原屋佐助板。「江戸」和泉屋吉兵衛（名山閣）板。【後録】天保8年初刊。「江戸」和泉屋吉兵衛板。【晩録】嘉永3年（1850）9月初刊。「江戸」有平爾齋（渡辺氏力）板。【耄録】嘉永7年2月初刊。「江戸」有平爾齋板。▽「言志四録」は一斎が晩年の40余年にわたって書いた語録（総1133条）で『言志録』『言志後録』『言志晩録』『言志耄録』4冊の総称。内容は自身の志に資する事柄を、自戒の念も込めて折々書き記した漢文体随筆。わが国語録中の白眉と言われる。主な内容は、『言志録』は、「運命は既に定まる」から「数理の秘」までの運命論・宿命論で、天意・天道・窮理・天命、本然の性・心、学問・学者、寛容、修己治人、君臣・為政者・重臣、生死・靈魂、欲望、教育など。『後録』は、「斃れて後已む」から「古人を心友とする」までの儒学を学ぶ心得で、養生・身体、儒学と実践・言行一致、君子・小人、書物、子弟教育・塾など。『晩録』は、「学問と政治」から「真我脱・真実の自己」までで、儒学・日本の宋学、講義・学問、武士・兵法、治世・乱世、家庭倫理、老人、医者・養生など。『耄録』は、「学問の道」から「臨終の心得」までで、学問、立志、心の靈性、感応、処世法、毀誉、君主・官吏、訴訟、老人心得・養生法、臨終心得など。



葬儀心得大意(84巻)

上等葬祭図式(84巻)



葬儀心得大意
神道修成派 権訓導水谷立五郎 同輯
同 南場宗利 同輯
○凡ソ人ノ生ルハハ賀スヘキコトナレモ死スルト云ハ哀スノ至リ言フヲ欲セザル所ナリサレモ人千歳ノ壽ヲ保テ難クハ死ハ免ルハハハザルヲナリ故ニ死モ亦言ハザルヲ得ズ是ヲ現今ノ事ニ比スレハ生ハ盡ニタ死ハ夜ノ如ク夜アリテ盡スル如ク人ニ死アル故ニ生アル所以ナリ吉山権環ハ當然ノ理ナリ然ルニ生ニ當リテハ祝スルヲニラ生ノ執行ニ



一齋佐藤先生著
言志後録
江都書林 名山閣藏版

一齋佐藤先生著
言志晩録
嘉永庚戌暮秋有平爾齋刊

一齋佐藤先生著
言志耄録
嘉永甲寅仲春有平爾齋刊

言志後録
江都一齋居士録
此學吾人一生負荷富麗而後已道固無窮免俗之上善無盡孔子自志學至七十而後自覺其有所進致致自強不知老之將至假使其論迄至期則其神明不測想當為何如哉凡學孔子者宜以孔子之志為志又或曰子自強不息天道也君子所以也知哉蓋華學為意大尚思日孜孜成湯苟日新文王不遑暇周公

言志晩録
單記積年又或一機及精錄則略以類相從事亦多僥倖特錄起天保戊戌正月五至嘉永己酉仲春月 一齋老人自題
為學緊要在心一字把心以治心謂之聖學為政著眼在情一字猶權以治情謂之王道王道聖學非一
狂者進取獨者有所不為子路冉有公西華志在進取曾參獨異其操而孟子以為狂何也三子

言志耄録
余今年齡踰八表耳目未至太衰何其事也一息之存學匪可廢單記成編以資耄耋嘉永甲寅夏五月 一齋老人自題
學也而等有三初學文次學行終學心然初之欲學文既在苦心則終之學心乃是學之悲也有三而無三
教有三等心教化也初教達也言教則實於言矣孔子曰予欲無言蓋以心教為高也

*各巻分売可

(85巻)
言志後録
言志晩録
言志耄録

第8回 (2021年11月予定)	第7回 (2021年5月予定)	第6回 (2020年11月予定)
100巻 【画譜】(収録3点) 半山画譜(全3巻・別本1冊)(松川半山画)、《花鳥山水》北樹画譜(葛飾北樹画。漆園董義序)、光信画譜(絵本集草)(長谷川光信・岡山繁信画) 99巻 【本草・植物】(収録2点) 《草形出生》草花絵全書(伊藤伊兵衛四世作・画)、本草図譜(文政板)(岩崎常正作・序。岡田清福画) 98巻 【神道】(収録6点) 《小社探買詞評》神路の手向草・小社探三段評(今西洪克作・序)、《絵入》神路の手引艸(増穂残口作・序)、神道道しるべ(初編)(野々口隆正作)、神民須知(天明5年)(小佐野某作)、《幸神》阡陌の立石(玉田永教作。佳信画) ほか 97巻 【キリスト教(排斥)】(収録5点) 杞憂小言(淮水南溪作)、斥邪漫筆・斥邪二筆(深慨隠士作・序・校。憂国野叟校)、《新撰》斥邪蘇(阿満得聞作)、破吉利支丹[破鬼理死端](鈴木正三作) ほか 96巻 【測量】(収録4点) 見立算規矩分等集(万尾時春作・序)、量地円起方成後編(廻分見)(剣持章行作。門人校訂)、量地図説(申斐駒蔵編。長谷川善左衛門関。小野友五郎校。安倍勘司・鈴木金六郎序。富田彦蔵跋)、《六分円器》量地手引草(村田如訥編) ほか	95巻 【医学(養生)】(収録2点) 《按腹鍼術》按摩手引(藤林良伯作)、こけぬ杖[古計努津兄・(長生要術)姑計怒通依(故家努豆恵)](山口重匡作・序。橘南谿校) 94巻 【伝記】(収録10点) 孝連人物考(和合編)(菅原友山作・序)、越後孝婦伝(林愿作。篠本為直書。相田政雋跋)、菅神廟碑銘解(田沼謙注・序。服部政世跋。小山梧桐・福田敬業題字。福田半香画)、義士夜討高名咄(承天則地作)、《江州日野》孝子善治行状(門坂善太郎作・序。脇坂義堂跋)、《朝師》紀季録[加賀阿闍梨日朝上人紀年録](一乗舎黙翁作・序)、和漢廿四孝(柳下亭種員作。歌川広重2世画。房種画) ほか 93巻 【書道】(収録2点) 東江先生書話(沢田東江作述。橋圭橘編・自序。井純卿金峩・蚊田御風序。田世璉・関脩齡跋)、臨池求源鈔(鈴木正真作・書。独清軒序) 92巻 【語源辞書】(収録1点) 日本釈名(貝原篤信編・序。松下見林序) 91巻 【商業(名鑑他)】(収録2点) 町人考見録(三井高房作)、諸国道中商人鑑	90巻 【商業(道德)】(収録2点) 商人生業鑑(弘化板)(岩垣光定作・序・跋。守岡光信画)、家業道德論(河田正矩作) 89巻 【医学(救急・看護他)】(収録5点) 看病手引歌(靈応作)、急救医法[賜民薬方・救民薬方録](阿部正興作・序・跋)、《長生法附録》救急法、古方便覧(六角重任作・書。吉益東洞校・序) ほか 88巻 【天文】(収録1点) 《運氣曆術》天文図解 87巻 【茶道】(収録4点) このめの説(古能免乃説・木芽説(前田夏蔭作・跋)、茶道早合点(珍阿作・序。萩箸叟跋)、煎茶早指南[自辨茶略](柳下亭嵐翠作) ほか 86巻 【学問】(収録3点) 《一覽博識》学問自在(如蘆山人作・序)、文教温故(山崎美成作・序) ほか

江戸時代の魅力
さらに広がる

『江戸時代庶民文庫』第2期 刊行にあたって

今日「江戸時代」への関心、注視の度合いは高まるばかりです。江戸時代には、庶民教育の普及による識字率の向上、また、印刷技術の進歩や出版活動の隆盛に伴う書籍の流通、そしてそれらを可能にした全国的な交通網の整備、流通の拡大、社会経済の発展などにより、庶民階級が台頭し、それまでの公家・僧侶・武家文化と異なる独自の文化が展開しました。庶民の「俗」文化が上流社会の「雅」文化を取りこみながらダイナミックに発展していった江戸時代に、現代に続く日本の伝統文化の大半が形成されたと言えますでしょう。

『江戸時代庶民文庫』は、当代庶民の生きる知恵と技術、生活の実相を知る基本的かつ貴重な史料を影印集録する叢書として全60巻・別巻一が刊行され(2012～16) 幸いにも江湖に好評裡に迎えられました。しかし、見るべき残すべき価値があり「発見」が待たれている分野や資料は汲み尽せないほどあります。ここに第二期(第61～100巻)を継続発刊し、本文庫が江戸時代史料の一層充実した宝庫として広く活用されることを願っています。

平成三〇年六月

大空社出版

*各巻
分売可ご希望の巻を選んで
お求めになれます!

*この収録資料一覧は現在予定されている書目です。新発見史料に差替えなど、変更する場合がありますのでご了解ください。

ご要望に応じ！

*各巻
分売可

求めたい

巻・分野・内容

から選べます。

●たとえば

こんな組合せで…

ジャンル・セット	巻	本体価格 (税別)
宗教(仏教・神道) セット	[計 5巻] 9～12, 60巻	74,500円
語彙 セット	[計 6巻] 3, 13, 14, 37～39巻	78,500円
女性・女子 セット (産育・家政他)	[計 11巻] 1, 2, 4, 5, 19, 20, 25～29巻	150,000円
教訓 セット	[計 19巻] 2, 4, 21～24, 30～ 36, 45～48, 57, 58巻	267,000円

…もちろん、この中の数冊でも…

❖ 第1期＋第2期(既刊分)
のジャンル組合せ例もあり
ます。お問合せください。

●配本で順番に揃えるなら…

配本	ISBN978-4-	本体価格
第1回(1～8巻)	283-01002-4	95,000円
第2回(9～16巻)	283-01003-1	108,000円
第3回(17～24巻)	283-01004-8	120,000円
第4回(25～32巻)	283-01005-5	115,000円
第5回(33～40巻)	283-01006-2	112,000円
第6回(41～48巻)	283-01007-9	115,000円
第7回(49～56巻)	283-01008-6	115,000円
第8回(57～60巻)	283-01009-3	58,000円

❖ ご予算、目的に合わせて
お求めください。

〈各巻価格表〉

体裁：A5判・上製・クロス装

巻	[ジャンル] 収録資料点数 / 内容 (頁数)	ISBN	本体価格 (税別)	✓
1巻	[女性百科] 女芸文三才図会 (540頁)	978-4-86688-001-3	19,000円	
2巻	[女子教訓] 2点 / 女要訓和歌文庫他 (280頁)	978-4-86688-002-0	9,500円	
3巻	[語彙] 2点 / 万宝女節用器栗囊 (350頁)	978-4-86688-003-7	12,000円	
4巻	[女子教訓] 3点 / 婦人教訓・女今川伊呂波文他 (290頁)	978-4-86688-004-4	10,000円	
5巻	[風俗・遊女] 3点 / 漫画百女他 (330頁)	978-4-86688-005-1	11,500円	
6巻	[諸芸] 4点 / 当流謡指南抄他 (300頁)	978-4-86688-006-8	10,000円	
7巻	[暦占] 3点 / 天竺靈感観音籤他 (290頁)	978-4-86688-007-5	10,000円	
8巻	[遊戯] 5点 / 秘事百撰・前編他 (380頁)	978-4-86688-008-2	13,000円	
9巻	[仏教(臨終行儀)] 3点 / 孝養集他 (510頁)	978-4-86688-009-9	18,000円	
10巻	[仏教(往生)] 3点 / 女人往生章他 (320頁)	978-4-86688-010-5	11,500円	
11巻	[仏教(仏教一般)] 4点 / 孝子善之丞感得伝他 (320頁)	978-4-86688-011-2	11,500円	
12巻	[仏教(放生)] 6点 / 商家繁盛・農家豊作・重宝記他(450頁)	978-4-86688-012-9	16,000円	
13巻	[語彙(通俗辞書)] 3点 / 畳辞訓解他 (330頁)	978-4-86688-013-6	11,500円	
14巻	[語彙(通俗辞書)] 4点 / 寺子節用錦袋鑑他 (390頁)	978-4-86688-014-3	13,500円	
15巻	[俚諺(俚諺一般)] 4点 / 漢語大和故事他 (400頁)	978-4-86688-015-0	14,000円	
16巻	[俚諺(道歌等)] 2点 / 和漢詞徳抄他 (330頁)	978-4-86688-016-7	12,000円	
17巻	[養生] 6点 / 養生百種他 (430頁)	978-4-86688-017-4	15,500円	
18巻	[養生] 5点 / 病家示訓他 (460頁)	978-4-86688-018-1	16,500円	
19巻	[産育] 4点 / 児相素見他 (430頁)	978-4-86688-019-8	15,500円	
20巻	[産育] 6点 / 老婆心書他 (510頁)	978-4-86688-020-4	18,500円	
21巻	[教訓] 5点 / 善惡道中独案内他 (380頁)	978-4-86688-021-1	13,500円	
22巻	[教訓] 4点 / むかしありしこと他 (310頁)	978-4-86688-022-8	11,000円	
23巻	[教訓] 3点 / 農家童子訓・海隅田舎草紙他 (430頁)	978-4-86688-023-5	15,000円	
24巻	[教訓] 2点 / 忠孝道の菜他 (400頁)	978-4-86688-024-2	14,500円	
25巻	[家政] 3点 / 万宝智恵袋他 (310頁)	978-4-86688-025-9	11,500円	
26巻	[家政] 2点 / 大全針刺宝他 (480頁)	978-4-86688-026-6	18,000円	
27巻	[家政] 錦囊智術全書(一～三冊)(340頁)	978-4-86688-027-3	12,500円	
28巻	[家政] 錦囊智術全書(四～七冊)(320頁)	978-4-86688-028-0	11,500円	
29巻	[家政] 4点 / 料理秘伝抄他 (320頁)	978-4-86688-029-7	12,500円	
30巻	[教訓] 2点 / 民家分量記他 (490頁)	978-4-86688-030-3	18,000円	
31巻	[教訓] 4点 / 貝原先生家訓他 (320頁)	978-4-86688-031-0	12,000円	
32巻	[教訓] 訓蒙勸孝禄 (520頁)	978-4-86688-032-7	19,000円	
33巻	[教訓] 4点 / 堪忍袋他 (340頁)	978-4-86688-033-4	13,000円	
34巻	[教訓] 5点 / ふみ鏡他 (360頁)	978-4-86688-034-1	14,000円	
35巻	[教訓] 4点 / 利運談他 (380頁)	978-4-86688-035-8	14,500円	
36巻	[教訓] 5点 / 童子常の心得他 (360頁)	978-4-86688-036-5	14,000円	
37巻	[語彙] 6点 / 古版字尽他 (320頁)	978-4-86688-037-2	12,000円	
38巻	[語彙] 世説故事苑 (380頁)	978-4-86688-038-9	14,500円	
39巻	[語彙] 事物異名類編 (380頁)	978-4-86688-039-6	15,000円	
40巻	[年代記] 3点 / 日本・唐土・二千年袖鑒他 (380頁)	978-4-86688-040-2	15,000円	
41巻	[法令・教諭] 4点 / 御当家御制法他 (340頁)	978-4-86688-041-9	13,000円	
42巻	[法令・教諭] 6点 / 父母状講釈他 (320頁)	978-4-86688-042-6	12,000円	
43巻	[礼法] 2点 / 三礼口訣他 (330頁)	978-4-86688-043-3	12,500円	
44巻	[礼法] 2点 / 日用贈答・書札辨惑集他 (410頁)	978-4-86688-044-0	15,000円	
45巻	[教訓] 主従心得草(初・二編)(480頁)	978-4-86688-045-7	17,500円	
46巻	[教訓] 主従心得草(三～五編)(570頁)	978-4-86688-046-4	21,000円	
47巻	[教訓] 6点 / 絵本清水の池他 (330頁)	978-4-86688-047-1	12,000円	
48巻	[教訓] 7点 / 教訓・拾ひ歌他 (320頁)	978-4-86688-048-8	12,000円	
49巻	[教育] 3点 / 武小学他 (390頁)	978-4-86688-049-5	15,000円	
50巻	[教育] 2点 / 授業編他 (400頁)	978-4-86688-050-1	15,500円	
51巻	[教育] 4点 / 間合早学問他 (350頁)	978-4-86688-051-8	13,500円	
52巻	[地誌] 2点 / 人国記他 (350頁)	978-4-86688-052-5	13,500円	
53巻	[地誌] 3点 / 松島図誌他 (440頁)	978-4-86688-053-2	16,500円	
54巻	[外国地誌] 増補・華夷通商考 (460頁)	978-4-86688-054-9	14,000円	
55巻	[外国地誌] 坤輿図識・正編 (310頁)	978-4-86688-055-6	12,000円	
56巻	[外国地誌] 坤輿図識・補編 (400頁)	978-4-86688-056-3	15,000円	
57巻	[教訓] 為人鈔(一～五巻)(340頁)	978-4-86688-057-0	13,500円	
58巻	[教訓] 為人鈔(六～十巻)(350頁)	978-4-86688-058-7	13,000円	
59巻	[救荒・防災] 10点 / 鎮火用心集他 (360頁)	978-4-86688-059-4	14,000円	
60巻	[神道] 6点 / 神風恵草他 (450頁)	978-4-86688-060-0	17,500円	
別巻	「江戸庶民」の生活を知る(解題・索引)(660頁)	978-4-908926-02-0	28,000円	

★詳細案内進呈 ご請求を

江戸時代庶民文庫

〈第2期〉全40巻(第61～100巻+別巻)

解題 小泉吉永(こいずみ よしなが)
(往来物研究家)

[体裁] A5判・上製・クロス装

*各巻
分売可

〈第2期〉第5回配本

全5巻(第81～85巻)

*2020年5月刊

巻【ジャンル】(収録資料点数) 本体価格(税別)

81巻【旅行・交通(海陸交通)】(2点)	380頁	978-4-86688-081-5	17,000円
82巻【災異(地震・救荒)】(7点)	380頁	978-4-86688-082-2	17,000円
83巻【仏教(般若心経)】(6点)	430頁	978-4-86688-083-9	19,000円
84巻【祭祀(葬祭)】(8点)	400頁	978-4-86688-084-6	17,000円
85巻【漢学(語録)】(1点)	400頁	978-4-86688-085-3	17,000円

全5巻揃(第81～85巻) 総約1990頁 978-4-86688-105-8 87,000円

*次回・第6回配本(第86～90巻) 2020年11月刊予定

〈第2期〉既刊

★既刊の詳細案内進呈

下記へご請求を

第1回配本 全5巻揃(61～65巻)総約1810頁 978-4-86688-101-0 78,000円

*2018年6月刊

61巻【園芸・飼育】(4点)	320頁	978-4-86688-061-7	14,500円
62巻【科学(化学・物理・理学)】(4点)	450頁	978-4-86688-062-4	19,500円
63巻【食養生】(2点)	380頁	978-4-86688-063-1	16,200円
64巻【料理・近代家政】(4点)	350頁	978-4-86688-064-8	14,500円
65巻【絵画(入門書)】(1点)	310頁	978-4-86688-065-5	13,300円

第2回配本 全5巻揃(66～70巻)総約2130頁 978-4-86688-102-7 88,000円

*2018年11月刊

66巻【笑話・小咄】(4点)	350頁	978-4-86688-066-2	14,800円
67巻【物産】(2点)	590頁	978-4-86688-067-9	23,400円
68巻【歌謡】(7点)	320頁	978-4-86688-068-6	14,000円
69巻【教育・学問】(4点)	390頁	978-4-86688-069-3	16,200円
70巻【人物辞典】(1点)	480頁	978-4-86688-070-9	19,600円

第3回配本 全5巻揃(71～75巻)総約2180頁 978-4-86688-103-4 96,000円

*2019年4月刊

71巻【戯文】(16点)	520頁	978-4-86688-071-6	22,500円
72巻【故事・俗説】(2点)	430頁	978-4-86688-072-3	19,000円
73巻【仏教】(4点)	470頁	978-4-86688-073-0	20,000円
74巻【農業】(5点)	420頁	978-4-86688-074-7	18,500円
75巻【絵本】(2点)	340頁	978-4-86688-075-4	16,000円

第4回配本 全5巻揃(76～80巻)総約2200頁 978-4-86688-104-1 96,500円

*2019年10月刊

76巻【建築】(3点)	400頁	978-4-86688-076-1	18,500円
77巻【紀行】(4点)	390頁	978-4-86688-077-8	18,500円
78巻【暦】(5点)	440頁	978-4-86688-078-5	19,000円
79巻【気象】(5点)	610頁	978-4-86688-079-2	24,500円
80巻【地方・経済】(3点)	360頁	978-4-86688-080-8	16,000円

江戸時代の庶民生活の諸相を
貴重な版本(影印)で見せる
一大叢書
収録分野・領域(ジャンル)が
さらに多彩な広がりを見せる

◆稀覯・新発見資料を多載
◆挿画・図版が豊富な史料を多載
◆鮮明印刷の版本「影印版」

〔第2期収録のジャンルより〕(予定を含む)
園芸・飼育 科学(化学・物理・理学)
養生 料理・近代家政 絵画(入門書)
話・小咄 物産 歌謡 教育・学問 人物
辞典 戯文 故事・俗説 仏教 農業 絵
本 建築 紀行 暦 気象 地方・経済
旅行・交通(海陸交通) 災異(地震・救荒)
仏教(般若心経) 祭祀(葬祭) 語録(漢学)
学問 茶道 天文 医学(救急・看護他) 商
業(道德) 商業(名鑑他) 語源辞書 書道
伝記 医学(養生) 測量 キリスト教 排
斥 神道 本草・植物 画譜:

*第2期には約180点の資料を収録、
総16,000ページ以上の予定です。

●全8回配本●2022年1月完結予定

江戸時代の生活分野に関する
あらゆる研究に有益この上なし!

【主な収録分野】教育・道徳・民衆・
女性・子ども・老人・生活・風習・
社会・産業・職人・風俗・芸能・
医学・科学・経済・交通・宗教・
絵画・出版…の歴史、美術・イ
ラスト・デザインの素材…

ヴィジュアル資料
多数収載!

〈第1期〉
全60巻・別巻1

●好評発売中

*本パンフレット
11ページに
全巻一覧があります。

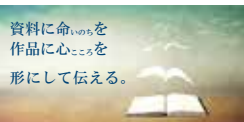
学術資料出版

大空社出版

©OZORASHASHUPPAN 2020

東京都北区中十条4-3-2 (〒114-0032)
TEL:03-5963-4451 / FAX:03-5963-4461
eigyo@ozorasha.co.jp

www.ozorasha.co.jp



資料に命を
作品に心を
形にして伝える。

・お取扱